

英語・小論文

試 験 科 目		ページ	解答用紙枚数	時 間	
英 語	〔英語コミュニケーションⅠ， 英語コミュニケーションⅡ， 英語コミュニケーションⅢ， 論理・表現Ⅰ，論理・表現Ⅱ， 論理・表現Ⅲ〕	から1科目	1～4	2枚	70分
小論文			5～11	1枚	90分

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで，この問題冊子を開いてはいけない。
2. この問題冊子は11ページある。印刷不鮮明の箇所などがある場合には監督者に申し出ること。
3. あらかじめ届け出た試験科目(英語，小論文の内の1科目)を解答すること。
4. 解答はすべて別紙の解答用紙に記入すること。
5. 解答用紙の指定欄には必ず受験番号を記入すること。
6. 解答用紙の評点欄には何も記入しないこと。
7. 英語の解答用紙の右下にある破線枠内には何も記入しないこと。
8. 解答用紙は持ち帰らないこと。

英 語

I 次の英文を読み、下の設問(1)~(6)に日本語で答えなさい。

Fear is a natural response to real or imagined danger. School children find many things in their environment that they cannot understand or control and may perceive as threatening. Smart children may be afraid of things that their friends have not yet learned to see as dangerous, but some children develop unreasonable fears, such as the fear of dogs or fear of crossing the street.

What causes children's particular fears? Psychologists tend to agree that fears are mostly learned. Sometimes children's fears result from their experiences of real dangers. Sometimes it is taught to them, unconsciously, by their parents, brothers and sisters. Sometimes, as in fear of storms, it results ^(a) from the children's misunderstanding of situations.

Typically, during elementary school years, children develop a fear of the supernatural, of accidents, school failure, or social rejection. Children's experiences will determine their fears: children from a low-income home tend to fear the physical dangers associated with poverty, such as lack of food or shelter, while middle-class children are more afraid of such threats as academic failure.

Anxiety, like fear, is a response to a felt danger, which may or may not be real. However, anxiety is usually not directed toward a specific object or situation. In fact, anxious children often do not know exactly what is worrying ^(b) them. To others they may only seem nervous; their anxiety is mostly indirect or internal. Though children aged three to five show their anxiety by a generalized excitement, elementary school children may develop specific symptoms: headaches, stomach aches, or tics.

Anxiety in children is quite common. Many children are afraid of new situations but are able to deal with them after the initial anxiety. Sometimes children's own fantasies about a situation scare them. Only when children show great anxiety is it appropriate to seek treatment.

【Adapted from S. R. Ambron., & D. Brodzinsky. (1978). *Lifespan Human Development*】

[注] unconsciously : 無意識に supernatural : 超自然現象
generalized : 一般的な tics : けいれん
fantasies : 空想

[設問]

- (1) 子どもにとって理屈に合わない恐怖の例を挙げなさい。
- (2) 心理学者は子どもの恐怖はどのように身につくと考えていますか？
- (3) 下線部(a)を日本語に訳しなさい。
- (4) 低所得家庭の子どもと中流家庭の子どもは何を恐れがちになるでしょうか。
- (5) 下線部(b)を日本語に訳しなさい。
- (6) 不安について治療を必要とするのはどのようなときですか。

Ⅱ 次の(1)~(5)の空所()に最も適当な英語の単語(1語)を入れて、対話の意味が通じるようにしなさい。

- (1) A: I hesitate to start a new school life. I'm already fifty.
B: Come on, Mom! It doesn't () whether you are young or old.
You can always start something new.
- (2) A: I wish I had not said such a stupid thing to my boss.
B: It is no () crying over spilt milk.
- (3) A: I've been studying for hours, and I still don't feel ready for the exam.
B: Maybe you should take a short () and come back to it later.
- (4) A: Have you seen Betty this afternoon?
B: No. I haven't seen her for a while. I wonder () she is sick.
- (5) A: Are you joining the volunteer event next Saturday?
B: Yes, I've already signed () and I'm looking forward to it.

Ⅲ 次の(1)～(5)が正しい英文になるように、それぞれの()の中の語句を並べかえなさい。解答用紙には()内のみ記入すること。

- (1) We (delighted, of, were, to, become, part) the team.
- (2) We got the news that (the, gave, twins, panda mother, birth, to) yesterday.
- (3) Anne has saved a (amount, money, to, of, study, considerable) abroad.
- (4) Is the essay you (related, working, global, to, on, are) warming?
- (5) This webpage can attract (as, as, much, the, twice, attention) other websites.

Ⅳ 次の(1)と(2)の質問から1つを選び、100語程度の英語で自分の考えを書きなさい。How are you? は3語と数えます。また解答用紙の()に選択した質問の番号を記入しなさい。

- (1) If you could change one thing about your hometown, what would it be?
- (2) Do you think we should study foreign languages other than English?

小 論 文

以下の資料は、山田鋭夫『ゆたかさをどう測るか——ウェルビーイングの経済学』(ちくま新書, 2025 年)からの抜粋である。これを読んで、次の設問すべてに答えなさい。なお、出題にあたっては小見出しを省略し、一部表記を改めた。

問Ⅰ 資料を 600 字以内で要約しなさい。

問Ⅱ 資料の内容を踏まえたうえで、「人間のための経済」とはどのようなものか、あなたの考えを具体例をあげて 600 字以内で述べなさい。

解答は、解答用紙の指定された箇所に記入すること。解答にあたっては、解答用紙の 1 マスを 1 字に使い、句読点、引用符、カッコなどはいずれも 1 字として扱う。ただし、算用数字およびアルファベットは 1 マス 2 字とする。

<資 料>

資本主義は20世紀末葉、フォーディズムから新自由主義へと大きく方向転換し、いくつかの動揺をともないながらも現在に至っている。新自由主義はグローバリゼーションを推進し、そのもとで世界的には金融資本主義やプラットフォーム資本主義の支配を招き、世界的な貧富格差を異常に拡大した。各国内部においても貧富格差の拡大や経済社会構造の激変をもたらした。加えて現代資本主義は、情報経済化のその先に知識経済化へと向かおうとしており、人びとに高い知的・創造的能力の形成を要請している。これに応えられない人間は不安定低賃金労働や社会的脱落へと追い込まれていく。ここに「新しい社会的リスク」と呼ばれる社会問題が前面に出てきた。

もちろん、「古く」からのリスク(失業、生活苦など)が十分な形で克服されたわけではないので、それは依然として課題でありつづけている。しかし今日、女性労働者が著増して旧来の男性稼ぎ手モデルの家族形態が崩壊しているだけでなく、グローバリゼーション、デジタル社会化、知識社会化のもと労働編成や必要な技能が激変し、これに対応すべく教育や職業再訓練の必要性が高まっている。また日本をはじめいくつかの国では、少子高齢化や人口減少が進み、これにともなう年金財政の逼迫化、労働力の不足、各種産業の衰退が深刻化している。

他方、人口の都市集中と農村部の過疎化が同時進行し、全社会経済の基層をなすべき互酬と連帯のコミュニティは壊滅に近い状態となっている。これによって人びとの社会的絆は希薄化し、人間生活の孤立化や無縁化に拍車がかけられている。たんに物的な貧困というよりも、社会的人間関係が切断され、人間の潜在能力が自己実現に向かっても社会的貢献に向かっても十分に発揮されえないという「能力形成的かつ人間関係的な貧困」が生じているのである。それが「新しい社会的リスク」である。

いくつかの例をあげれば、雇用の非正規化と不安定就業、賃金・昇進における男女格差や差別、労働組合の衰退、単身世帯(非婚、独居老人)や母子家庭(非婚、離別、死別)の著増、貧困かつ独居の高齢層の増加、社会的孤立や社会的排除の深刻化、高齢化による介護負担、環境問題、等々、数えたらきりがない。とりわけ資本主義による市場経済化ひとつをとってみても、それはたんに市場の拡張と地域社会の崩壊をもたらただけでなく、消費市場そのものの性質をいよいよ非人格的かつ無機的なもの

へと転換させ、それによって高齢者などの社会的弱者の孤立に輪をかけることになった。

こうした事態はいずれも、たんに市場のみでなく経済社会全体において、「経済のための人間」つまり人間の手段視が先行して、「人間のための経済」つまり人間的発展こそが目的なのだという観点がなおざりにされた結果であろう。新しい社会的リスクのかかなりの部分は、社会的人間関係の衰退や人間的な能力形成の不備という問題にかかわっているものであり、したがってその改革のためには、諸個人による自発的な連帯組織の形成はもちろんのこととして、それを手助けする公的な「対人社会サービス」の充実が喫緊の課題となっている。

対人サービスとは、広い意味での「ケアワーク」といってもよかろう。広井良典によれば、「ケア」(care)の語には広狭さまざまな位相がある。それは「介護」「看護」(「育児」も)という最狭義に始まって、いま少しひろく「世話」「手入れ」の意味をもち、最広義には「配慮」「関係性」といった含意へと広がる。ここに「関係性」とは、個体と個体の、あるいは人間と自然などとの関係性を含む。「対人サービス」はこの三相のすべてに当てはまるという意味で、まさに「ケア」とも換言されよう。

ところが、従来型の福祉国家はケアワークや対人社会サービスという課題にほとんど十分な対応ができていない。従来型福祉国家はともすると形式主義や官僚主義に陥っていて無機画的な対応しかできず、加えて、もっぱら貧窮者への現金給付、公的保険制度、福祉・教育施設などのハコモノ建設(それすらも現実には追いついていないが)で事態に対処しようとしてきた。福祉業務の市場移管も試みられているが、福祉制度という社会的共通資本は本質的に営利市場にはなじまない。要するに集権的な福祉国家は今日、解決すべき新しい課題のために必要な新しい組織形態や社会関係資本ソーシャル・キャピタルの構築に対応できていないのである。人材育成とふさわしい待遇に後れをとっていることは、言うまでもない。

福祉を例にとってみたが、ほかにも医療、教育、文化、さらには国際開発や環境問題にかかわっても、国家や市場は適切な人的サービスの提供面で役割を果たしえないでいる。「政府の失敗」「市場の失敗」はここにも現れている。

そのみでない。さきに触れた「新しい社会的リスク」は戦後日本の「標準家庭」モデ

ルが崩壊した現れでもあり、いわば「家族の失敗」をも意味している。「標準家庭」「標準世帯」とは、夫(稼ぎ手)、妻(専業主婦)、子ども2人(被扶養者)からなる世帯を指し、そこでは老親の同居は想定されていない。そしてこれが政府の家計調査や家族政策の基本モデルとされてきた。

しかし今や、そういった標準世帯は総世帯数の5%以下に低下し、夫婦のみ世帯、中高年親子世帯、ひとり親世帯(特に母子家庭)、単身世帯(特に独居老人)などが激増した。核家族はさらなる核分裂を極めているのである(やがては全世帯の半分近くが単独世帯になるという試算もある)。その結果、介護はもちろん、育児や教育といったケアの仕事は家族だけでは担えない。ますます進行するこの「家族の失敗」に、いや少なくとも「家族の変容」に、従来型福祉国家は十分対応できていないし、ますます対応できなくなる。

営利企業が支配する市場はもちろん、官僚的形式主義の国家もまた、教育・医療・福祉・文化など、「人間形成」「人間開発」にかかわる基礎的な対人サービスにおいて、これを「共助」「互助」「互恵」「信頼」という最も重要な精神と指針において遂行し、人びとがいただくニーズに対してきめ細かく丁寧に対応することができていない。加えて医療・教育・福祉サービスは、サービスの提供者と受け手の間には多くの場合、非対称的な人間的依存関係が存在するだけでなく、情報の非対称性も大きく、それによって重大かつ深刻な問題が発生しやすい。それだけに、利潤原理や官僚主義ではなしえないところの、地域や個人の実状に即したきめ細かいコミュニケーションが必要とされている。

いわば市場の失敗、政府の失敗、家族の失敗が重なってくると、小回りのきく対人社会サービスの活動は絶対不可欠となってくる。そのさい、こまやかな需給調整にあたっては、これからは各種のデータ・プラットフォームの活用も必要となつてこよう。そうしたものとしての対人サービスとは、いささか味気のない経済学的表現をつかえば「人間による人間の生産」と呼べる活動である。

具体的に考えてみよう。まずは「医療」。ここに医療とは、たんに医師らによる診察・治療行為だけでなく、もっと広く看護、投薬、保健、衛生、健康診査、介護・リハビリ(これは福祉とも重なる)、それに関係する事務機構やボランティア活動をも含

む。そうした医療活動によってある人の健康が回復し、あるいは病気が予防されるということは、必要な機器や薬剤を媒介手段としつつも、結局は人間(医療関係者)による人間(回復した患者)の生産だと言ってよかろう。

次に「教育」であるが、これにはたんに学校教育だけでなく、職業教育、生涯教育、リカレント教育、放送教育、就学前教育、家庭教育、カウンセリングなども含まれる。その教育によって、知的能力、技術・技能だけでなく、人格性、創造性、社会性、愛情が^{かんよう}涵養されるとすれば、これも人間(教育関係者)による人間(教育によって開発された受講者など)の生産である。

第三に「福祉」。介護、訪問介護、リハビリ、カウンセリング、高齢者や障がい者へのケア施設だけでなく、各種の生活保障制度(社会保険、生活保護など)は、人生におけるさまざまなハンディキャップやリスクを軽減ないし保障することによって、人びとの生活不安、健康不安、社会的孤立に対処している。それは互助・連帯の精神によって人間が人間にはたらきかけ、またそのなかで人間が人間として社会的に生きる希望を与えられるべき場である。

第四に「文化」。これにはきわめて広範かつ茫漠とした領域が含まれるが、学術、芸術、芸能、映画、演劇、書物、レクリエーション、スポーツなどを通して、探求心、感性、審美性、想像力、思考力、創造性、体力、精神力、協調性を育てつつ人間的成長が図られる場である。例えば音楽家や作家(人間)はその作品を通して聴衆や読者(人間)にはたらきかけ、後者の感性や創造力を喚起し人間的成長に寄与する。

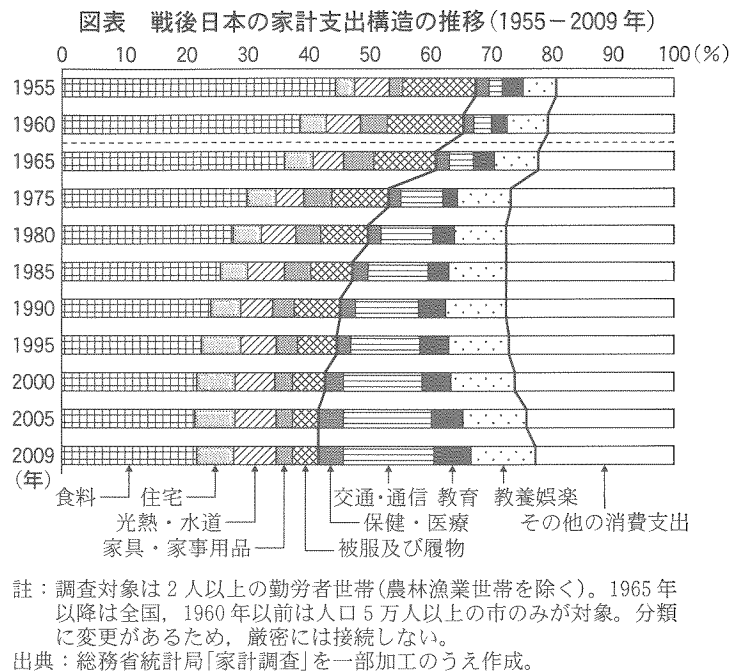
「人間による人間の生産」を代表する活動はこれら四つに限定されるものでなく、どのような活動(職業)でも、その提供者は職業的能力が開発され、職業人はそのなかで人間的成長をとげていくのが一般的であろう。また一般に、職業活動の成果はそれを享受する者の厚生を高めるであろう。しかし、上に挙げた医療、教育、福祉、文化の四活動は、多くの場合、各種の機器や道具や作品を介在させてではあれ、人間が人間に対して、程度はさまざまではあるが、^{じか}直に働きかける対面的活動である。だからその分、生身の人間対象を意識しつつ、生身の人間主体によるきめ細かいサービス提供が要請されている。また、それを媒介する柔軟な活動が必要となる。

そして同時に、これらは文字どおり「人間形成的」(anthropogenetic)な活動なのである。人間^{とうや}陶冶的な活動である。銘記すべきは、この人間形成的部門が比重を増して

くるとともに、非営利組織の活動の範囲は広がってくるということである。

比喩的にいうならば、現代資本主義の歴史は、「モノによるモノの生産」(製造業)から「カネによるカネの生産」(金融業)を経て、いまようやく「ヒトによるヒトの生産」(対人社会サービス)が基軸となる時代を迎えているのであろう。これからは「人間形成」が経済社会を主導すべき時代なのである。

(中 略)



戦後日本の家計消費支出構成をみても、高度成長期直前には10%程度であった人間形成的支出(保健・医療、交通・通信、教育、教養娯楽)は、2009年には35%程度にまで、ひたすら増加の一途をたどっている。それは図表が示すとおりである。図の左側は衣食住にかかわる物品への支出であり、いわば「モノ消費」支出である。対して、その右手の一群は、医療・交通通信・教育・教養娯楽など「人とのつながり」の深い消費であり、いわば「コト消費」である。モノ消費がある程度満たされると、コト消費への支出、すなわち人間形成的支出が重きをなすにいたる。まして知識社会化が進

んだ今日、世界的に「人間が人間に働きかける作業が増加している」ことは容易に推察される。

＜注釈＞

フォーディズム：「生産性上昇→平均所得上昇→GDP 成長→生産性上昇」という累積的な因果関係をもつ経済システム。

プラットフォーム資本主義：アマゾンなど GAFA に代表されるプラットフォーム運営会社の活動を基盤とした経済システム。

令和8年度入学試験 小論文「出題意図」

(入試情報公開用)

経済経営学類 一般選抜 前期日程

本出題は、山田鋭夫『ゆたかさをどう測るか——ウェルビーイングの経済学』（ちくま新書、2025年）のうち、126頁から136頁を資料として与えたうえで、そこから著者の論点を的確に読み取り、論点を整理・再構築する力を試す目的で出題した。あわせて、この論点に対する自分の意見をまとめ、正確に、かつわかりやすく、表現できる能力があるかを判定したいという意図も、出題意図のひとつである。